



“永続”という2文字を中心点に置き、YEG活動を通して地域の変革も含めながら目的を設計することで、まずは大きく変わらと思っています。そしてもう一つは、その“永続”を軸にした新たな未来的経済価値を生み出す。これは前橋の白井屋ホテルなどもあり、太田や沼田など他の都市も含めて分科会、交流会を開催し、自然と伝統・歴史・文化、そして地域の人と人との営みを、時代に合わせたアートとデザインで表現したい。JC（日本青年会議所）ではなくYEG（日本商工会議所青年部）という、経済を通じた地域づくりができる我々だからこそ、全国の皆さんや地域住民の皆さん、行政の皆さんに対して、重要な一手をこの全国大会で表現できると感じています。

シンプルに伝えたいことはYEGらしさとは何か、そのベースは“永続”という2文字。これを感じていただく全国大会にしたいということですね。

中川大会会長 とにかく我々は“ハイパーローカル”という言葉の軸にして、群馬だからこそ表現できることを追い求めます。同時に、群馬でしかできないことではなく、我々YEGメンバーとしての気概と覚悟、地域愛を持って、アートとデザインでその地域の特色を表現します。

参加される皆さんには、ぜひ、自分たちの地域だったかどうかのような表現、どのような魅力の発信の仕方があるかということを考えながら、自分たちの地域に置き換えたらかういふことができるというような感覚を持って参加いただきたいと思います。我々の大会には小野会長の言葉の通り“永続”というキーワードがあります。永続をどのように果たしていくかを分科会で模索したい。また、コンベンションそのもの



第一回全国大会当時の様子

の永続ということも一つのポイントとして掲げているので、そういったところも、こんなやり方があるとか、自分たちならこういう表現ができるとか、YEGのコンベンションはもっと自由でいいというところを感じてもらいたいなと思っています。

群馬が始まりの地ということ、一つのフックとして我々は考えていますけれども、各地いろいろな地域特性や歴史があるでしょうから、そこに思いを馳せながら、未来の理想を描けるような、コンベンションだけでなく単会活動も含めて描けるようなところを感じてほしい。また、創始の思いに寄り添って考えると、当初からつながることをすごく大事にした組織だったのでしょうか。各地に点在していた単会青年部を全国組織として一つにまとめるというのは、お互いつながろうということだと思うので、つながることの貴重さを改めて再発見・再認識できるような時間にしてもらいたいと思います。